

ミズモトの

数字で見る経済

世界で最もロボットの多い国
日本のロボット産業の可能性

水元 雅巳(みずもとまさみ)

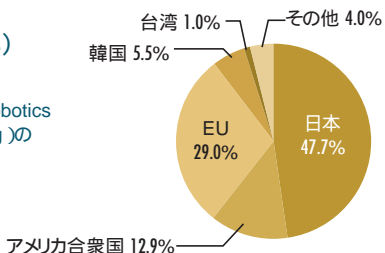
1975年生まれのみずがめ座。某大手都市銀行に入行後、「大阪経済の動向に深く関わっている中小企業の実態が知りたい!!」との思いを胸に大阪都市経済調査会へ。「数字のことなら何でもお任せ」の頼れる男だが、実はキャンブラー。好きな言葉は「臨機応変、出たとこ勝負」。趣味は釣。

グラフ1

47.7%:世界の汎用産業用ロボット稼働台数に占める日本の割合

世界の汎用産業用ロボット
稼働台数国別比率(2001年)

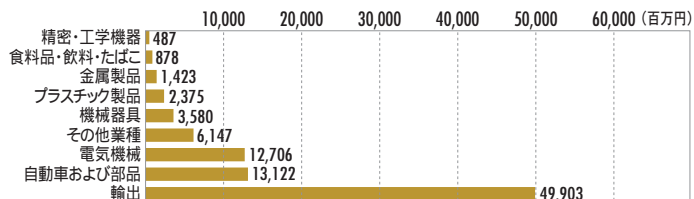
出所:International Federation of Robotics
ホームページ <http://www.ifr.org> の
データを加工
日本及び韓国の数値は
産業用ロボット全てを含む



グラフ2

499億円:日本のマニピュレータとロボットの輸出額

マニピュレータとロボットの業種別出荷額(平成15年1月~3月)



出所:日本ロボット工業会ホームページ(<http://www.jara.jp/>)のデータを加工

「ロボット」という言葉は、なんとなく近未来やSFを連想させる言葉ですが、産業界ではもう何十年も前から実用化されています。みなさんも工場で機械のアームが自動的に製品を作っていく様子をテレビなどでご覧になったことがあるでしょう。あれも「ロボット」の範疇に入ります。

グラフ1はそういった産業用ロボットが世界でどのくらい使われているかを表したものです。日本で使用されているロボットは世界の47.7パーセントで、これはアメリカの3.7倍、EUの1.6倍になっています。日本は全世界の産業用ロボットの約半分が集まるロボッ

ト大国であることがわかります。

日本が世界最大のロボット使用国であることはわかりましたが、日本でつくられたロボットはどうなっているのでしょうか？グラフ2では、日本全体でつくられているロボットとマニピュレータ(人工の手のような機械)は全部で906億円ですが、そのうち、実に499億円分が輸出に回っていることがわかります。つまり、ロボットは日本に残された有望な輸出品と言えるでしょう。

さらに最近では、日本が得意としている産業用ロボットに加えて、生活支援型のロボットが脚光を浴びつつあり、ロボット産

業の市場が拡大する可能性が高まっています。診療や介護、家事などを行う生活支援型ロボットを作り出すには、製造技術とともにソフトウェアの能力が必要とされると言われています。ソフトウェアの開発力では日本が必ず抜けて優れているとは言えませんが、ロボットの製造技術や能力は間違いなく世界トップと見て良いでしょう。また、ロボットにはIC技術の他に、各種機械工業などのノウハウが必要とされています。日本の中でも製造業の比率が高い大阪にとって、ロボット産業は有望な「飯の種」になる可能性を秘めていると言えるでしょう。